■　発　行
東谷地区まちづくり協議会
■　編　集
まちづくり協議会広報部会
責任者　蜷川昭代
■　所在地
小倉南区木下704-1
東谷市民センター内

令和8年3月15日
(日曜日)

平尾台の野焼きも行われ、東谷にも春到来！

主任児童委員の役割を終えて

前主任児童委員
（新道寺校区）
奥津　美知代

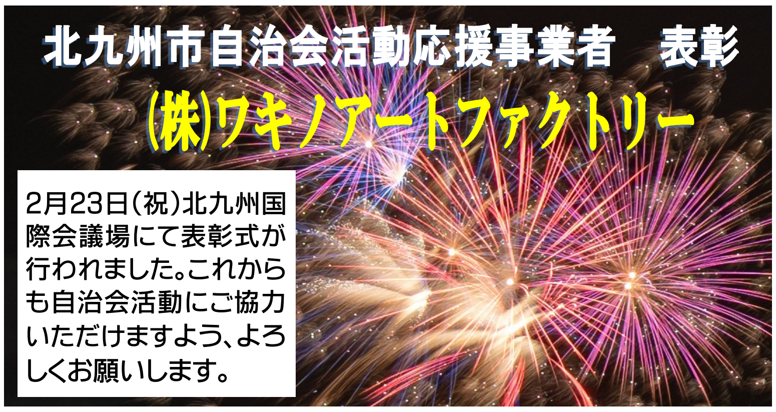
　昨秋の一斉改選で新道寺校区主任児童委員を後任の迫田さんと交代しました。4期12年、あっという間です。コロナ禍以前は、新生児赤ちゃん訪問事業が委員としての活動の柱でしたが、状況が一変。この5年間は区全体で委員の直接の訪問が見直され少し寂しくなりました。

　不登校・引きこもり・ネグレクト・子どもだけでなく親も含めた発達障害など、他にも様々な社会問題に沿った研修の機会を頂きました。今、社会で起こっているこれらの問題はどこの地区にも、この小さな東谷の中にもあって、市丸校区委員の高住さん、前委員の節原さんとも、微力な自分たちに何ができるか考え悩んだりする事も度々ありました。南区全体では研修のたび、他地区の方々と事例を交え活動の難しさや悩みを打ち明け合い共有できた事も印象深い思い出です。

　訪問のたび、丁寧にお話し下さった両小学校、中学校の歴代の校長先生方、忙しい日常の中、日々地域のために誠実に活動されている東谷民児協の皆さん、大変お世話になりました。

　今、毎朝7時半、新道寺小学校下の大きな交差点を車で通ります。毎日必ず地域の高齢者の方々が児童の為に、見守り誘導して下さっています。雨の日も風の日も。頭が下がります。安全に元気に東谷の子ども達が当たり前のように過ごせる事に、日々感謝の気持ちになります。私も地域の一人として、今後も出来る限り子ども達を見守っていけたらと思います。

北九州市自治会活動応援事業者　表彰
㈱ワキノアートファクトリー



2月23日(祝)北九州国際会議場にて表彰式が行われました。これからも自治会活動にご協力いただけますよう、よろしくお願いします。

【 会社紹介 】

　株式会社ワキノアートファクトリーは、1953年（昭和28年）、小倉市大門にて「脇野煙火商会」として創業、門司市上藤松への移転を経て、工場用地拡幅の為、1996年に小倉南区呼野へ拠点を移し、2003年に現社名に。創業以来70年以上にわたり、日本の花火文化とともに歩み、伝統技術を礎に時代に応じた表現と演出の革新を続けてきました。

　花火を一過性の娯楽ではなく「設計される空間演出」として捉え、独自の演出設計を確立しています、花火製造・演出会社です。

　1990年代よりテーマパーク花火のシステム化に取り組み、スペースワールドやハウステンボス開園当初から運用を担当。東京オリンピック開会式や日本国際博覧会（大阪・関西万博）関連行事にも参画しました。2025年には「全国花火競技大会 大曲の花火―春の章―」新作花火コレクション部門で優秀賞を受賞、「やつしろ全国花火競技大会」スターマインの部で優勝を果たしました。

　地元では関門海峡花火大会・わっしょい100万夏祭りをはじめ各種地域行事を長年支援。

　コロナ禍では東谷地区のご協力を得て始めた、『地域を元気に』の分散型花火が全国各地へと波及し、花火の新たな社会的役割を掲示しました。

　現在は沖縄から北海道まで全国で活動。製造工程では、完全自動玉張り機等、最先端の技術導入し花火を文化と産業の両面から次世代へつなぐ挑戦を続けています。

2019年「第5回　北九州オンリーワン企業」認定。
2025年「北九州市自治会活動応援事業者」表彰。

北九州グランドアワード2026
北九州市表彰

この度、東谷地区から表彰された皆さま

【社会福祉功労】
奥津　美知代　氏　（民生委員・児童委員）
平野　美恵子　氏　（小倉南区食生活改善推進員協議会副会長）

【教育文化功労】
神園　まゆ美　氏　（スポーツ推進委員）

北九州市における社会福祉や教育などの分野で永年にわたりご尽力のあった方々を対象に表彰されるものです。

問い合わせ

東谷市民センター
TEL/FAX 093-451-0217
平日・土曜　9:00～17:00
http://higashitanikoho.sakura.ne.jp/
Mail to: higashitani.cc@silk.ocn.ne.jp

東谷まちづくり協議会カップ グラウンドゴルフ大会開催

3月23日(月)
予備日　3月25日(水)
場所　東谷興農会グランド

ちっちゃいたまご

「妊産婦・乳幼児なんでも相談」
3月24日(火)
10：30～11：30
東谷市民センター和室
★母子健康手帳・バスタオル持参
問合せ：小倉南区役所保健福祉課
TEL　951-4125

安全安心パトロール

・3月27日(金) 19時00分～
・4月10日(金) 14時30分～

東谷市民センター出発！

東谷コミュニティカレンダー

3月
16日（月）わいわいサロン（紫水）
18日（水）サロンばんざい（木下）
23日（月）まち協カップ「グラウンドゴルフ大会」
わいわいサロン（紫水）
稲穂サロン（新一）
26日（木）ニコニコ会（呼野）
28日（土）高齢者サロン「風船バレー」
30日（月）わいわいサロン（紫水）

4月
1日（水）サロンばんざい（木下）
3日（金）ふれあい昼食会
6日（月）わいわいサロン（紫水）
8日（水）市丸カフェ（市丸）
9日（木）狂犬病予防注射
11日（土）東谷婦人会総会
13日（月）わいわいサロン（紫水）

小中学校始業式

4月8日（水）

入学式

東谷中学校
4月10日（金）

市丸小学校
新道寺小学校
4月14日（火）

3月の絵手紙

絵手紙教室　東谷市民センター和室
3月27日【金】10時～お気軽にどうぞ

安田　久美子　さん　作

東谷健康づくりコーナー

健康づくりと人の寿命

健康づくり部会
理　事
能丸　康夫

今回、健康づくりと人間の寿命について考えてみました。人生100年時代といわれる現代、ただ長生きするだけでなく「健康でいられる期間＝健康寿命」をいかに延ばすかがポイントのようです。

ちなみに、ヒトの寿命は、約120年という生物学的な限界があるとされています。日本人では、福岡県の田中カ子（かね）さんが2022年4月19日に119歳で亡くなるまで、世界最高齢としてギネス記録に認定されていました。

健康寿命を平たく言うと、「誰の手も借りず（介護されず）、自分の足で歩き、元気に日常生活を送れる期間」と言われています。

2024年（令和6年）発表の厚生労働省データによると、日本人の平均寿命は男性約81歳、女性約87歳、健康寿命は男性約72歳、女性約75歳とのこと約8～12年の差があり、この期間は介護や医療のお世話になる可能性がたかい期間ということになります。

健康寿命を延ばすための秘訣は、単一の習慣ではなく「栄養（食事）」「運動」「社会参加」の3つの柱をバランスよく生活に取り入れることです。これらは互いに影響し合っており、無理のない範囲で継続することが重要であることがわかっています。

東谷地区健康づくり部会では医師、薬剤師、小倉南区保健福祉課の先生による健康講話、食育講話、地域の委員の方々による東谷地区の史跡をめぐるイベントウォーキング、健康体操、グランドゴルフ、絵手紙の作成など健康維持や趣味のグループに参加しながら社会とのつながりを持つ「健康づくり講座」の情報を数多く発信しています。

家族や友人、地域の人々と交流することで、心の支えや安心感が得られ、ストレスの軽減にもつながります。大切なのは、自分に合った健康づくりのための習慣を見つけて無理なく続けることではないでしょうか。

「写真でみるひがしたに歳時記」

春の風物詩　平尾台の野焼きが行われました

2月22日（日）、平尾台の野焼きが行われました。野焼きは、景観維持保全や害虫駆除、山林火災防止などを目的として実施されます。枯れ草がパチパチと音を立て炎が燃え広がり、みるみる黒い大地に…

安全に注意を払いながら、野焼きに従事していただいた皆さまお疲れさまでした。

5月頃には、新芽が芽吹き緑の大地に覆われることでしょう。

雛飾りで彩られ、市民センターが華やかに

「東谷まちづくり」への掲載記事を募集！

「こんなことがあったよ」「これ載せて欲しいな～」など、いろいろな情報をお寄せ下さい。自薦・他薦なんでもOK！！
東谷市民センターへ原稿や写真をお持ちいただくか下記のアドレスまでメールで送信下さい。尚、全ての記事を掲載できない場合もあります。あらかじめご了承下さい。
東谷地区まちづくり協議会　　higashitani.cc@silk.ocn.ne.jp

東谷地区社協・市民講座共催
ふれあい視察研修＆海外技能実習生交流会

2月21日（土）東谷地区社協と市民講座共催で、熊本方面へ視察研修にでかけました。 ミャンマーからの技能実習生の方も参加され、一緒に日本の歴史文化にふれたり、昼食をとりながら交流を深めました。

車中でも、自己紹介の後、実習生の方からミャンマー語の挨拶やミャンマーの事を色々教えてもらったりと交流の輪を広げることができ、有意義な時間を持つことができました。

東谷郷土資料館だより　23

東谷郷土資料館委員　　西田　順一

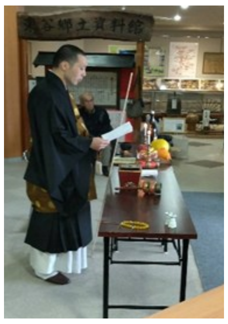
現在郷土資料館で行っている東谷歴史講座では、木下在住だった溝口連氏の著作「企救一揆」の読み合せを行っていますが、第3回目は一揆の佳境の場面です。偶然にも156回忌供養の2月25日に行いました。あいにく当日は雨模様で室内で開催しましたが、井手浦の浄泉寺さんに供養の読経を行っていただき滞りなく終えることができました。講座の方は明治2年11月18日、企救郡一帯で万を超える農民が参加した一揆の顛末を溝口氏の迫力ある筆による描写を読み進めました。この企救一揆は万を超える大規模なものでしたが、原口九右衛門さん以下の優れた統率で家屋の打ちこわしや放火や多少の暴力ははあったものの、一人の死者も出すことのなかった、極めてまれな一揆でした。今回は作品中に三谷各地の馴染みのある地名や寺社も多く登場するので、その場所の現状を説明する資料も添えて解説しました。

次回第4回目は、3月12日（木）14時30分～16時まで東谷市民センター2F第一集会室で行います。第5回目は3月26日（木）14時30分～16時まで東谷市民センター2F第一集会室です。途中参加の方には今までのテキストもお渡しするので途中からでもなじめると思います。参加希望の方は090－8604－4544西田まで電話もしくはショートメッセージで連絡ください。第4回目は長州藩奇兵隊隊長と九右衛門さんの迫真の対峙の場面やその後の一揆の後顛末における九右衛門さんたちの潔い態度などを読み進めます。

企救一揆の発端となった
新道寺一の天疫神社拝殿です

興農会館の九右衛門さん顕彰碑

長野地区の農民が集結した
護念寺さんです



供養祭での様子です